

指定答申された文化財

種別	名称	員数	所在地	保存団体
無形民俗文化財	阿波木偶「三番叟まわし」		徳島市国府町芝原字 神楽免158	阿波木偶箱まわし保存会

(参考)

文化財の保護に関する条例

文化財の保護に関する条例 (抜粋)

第五章 民俗文化財(県指定有形民俗文化財及び県指定無形民俗文化財)

第三十条 委員会は、県の区域内に存する有形の民俗文化財(法第七十八条第一項の規定により重要有形民俗文化財に指定されたものを除く。)のうち県にとって重要なものを徳島県指定有形民俗文化財(以下「県指定有形民俗文化財」という。)に、無形の民俗文化財(法第七十八条第一項の規定により重要無形民俗文化財に指定されたものを除く。)のうち県にとって重要なものを徳島県指定無形民俗文化財(以下「県指定無形民俗文化財」という。)に指定することができる。

2 前項の規定による県指定有形民俗文化財の指定には、第八条第二項から第六項までの規定を準用する。

3 第一項の規定による県指定無形民俗文化財の指定には、第二十四条第三項の規定を準用する。

4 第一項の規定による県指定無形民俗文化財の指定は、その旨を告示してする。

県無形民俗文化財指定基準

1 風俗慣習のうち、次の各号の一に該当し、特に重要なもの

(1) 由来、内容等において県民の基盤的な生活文化の特色を示すもので典型的なもの

(2) 年中行事、祭礼、法会等の中で行われる行事で、芸能の基盤を示すもの

2 民俗芸能のうち、次の各号の一に該当し、特に重要なもの

(1) 芸能の発生又は成立を示すもの

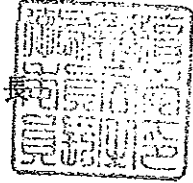
(2) 芸能の変遷の過程を示すもの

(3) 地域的特色を示すもの

教文第832号
平成26年12月22日

徳島県文化財保護審議会会長 殿

徳島県教育委員会委員長



文化財の指定について（諮問）

このことについて、文化財の保護に関する条例（昭和32年条例第23号）第30条第2項の規定により、次のとおり諮問します。

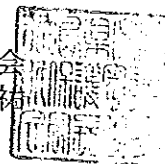
諮問事項

（指定申請文化財）

種別	名称	員数	所在地	保存団体
無形民俗文化財	阿波木偶「三番叟まわし」		徳島市国府町芝原字 神楽免158	阿波木偶箱まわし保存会

徳島県教育委員会
委員長 松重 和美 殿

徳島県文化財保護審議会
会長 石田 啓祐



文化財の指定について（答申）

平成26年12月22日付け教文第832号により諮問のありました次の文化財については、慎重に審議した結果、徳島県の文化財として指定することを適当と認めますので、ここに答申いたします。

（指定を答申した文化財）

種別	名称	員数	所在地	保存団体
無形民俗 文化財	阿波木偶「三番叟まわし」		徳島市国府町芝原字 神楽免158	阿波木偶箱まわし保存会

（1）文化財の概要

阿波木偶「三番叟まわし」は、4体の木偶（千歳、翁、三番叟、えびす）を二つの木箱（山間部では行李）に入れて移動し、民家で門開け神事を行う祝福芸で、人形遣い1人、鼓打ち1人または2人が一組となって行う。千歳・翁・三番叟をまわす「式三番叟」で天下泰平、五穀豊穡、家内安全、無病息災を祈り、「えびす」が商売繁盛を予祝する。

かつて三番叟芸人の多くは県西部に居住し、それぞれの旦那場（回檀先）を日時を決めて門付けしていたが、高度経済成長期の生活様式の変化等により衰退していった。保存団体である「阿波木偶箱まわし保存会」は、最後の三番叟芸人といわれた旧三好町の男性に師事し、男性の死後、旦那場や技術、道具類を受け継ぎ、伝統的な三番叟まわしを継承している。

「阿波木偶箱まわし保存会」は平成26年現在、県内各地で900軒を超える門付けを行っている。加えて、農家での鍬初め、藍商家での「帳場祈祷」、製藍所での「寝床祈祷」、新築の際の地鎮祭など「三番叟まわし」による祈祷を行っている。一方、受け入れ側は神事として捉え、祝儀として、現金の他に、昔ながらのお米・お餅・果物等を手渡すこともある。

「式三番叟」に「えびす」が加わる形態は他になく、本県独自の伝統芸能である。また、獅子舞、太々神楽、万歳等の「門付け」は他都府県にも残るが、人形まわしの「門付け」は全国で唯一伝承されており、神事形態を継承している阿波木偶「三番叟まわし」は、貴重な無形民俗文化財である。

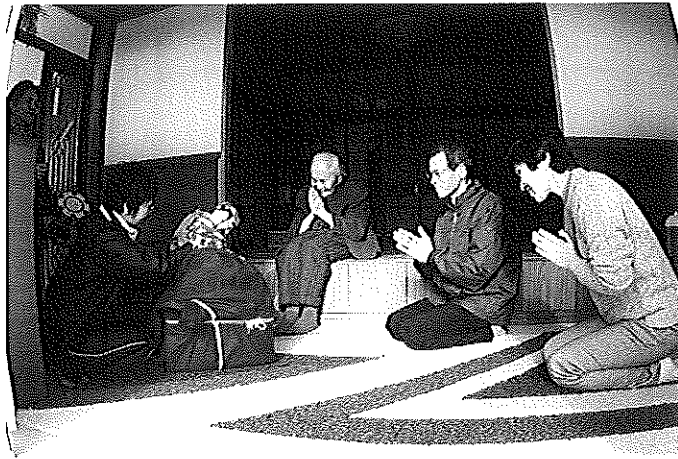
（2）指定基準

県無形民俗文化財

- 1 風俗慣習のうち、次の各号の一に該当し、特に重要なもの
(2) 年中行事、祭礼、法会等の中で行われる行事で、芸能の基盤を示すもの
- 2 民俗芸能のうち、次の各号の一に該当し、特に重要なもの
(3) 地域的特色を示すもの

調 査 票

種 別	無形民俗文化財	名称・員数(面積)	阿波木偶「三番叟まわし」
所 在 地	徳島県徳島市国府町芝原字神楽免158		
ふりがな 所有者氏名	あわまこほに ひでんかい なかうちまさこ 阿波木偶箱まわし保存会 (会長 中内正子)	住 所	徳島県徳島市国府町芝原字神楽免158
管理者氏名	同 上	住 所	同 上
保存管理の 状 況	阿波木偶箱まわし保存会は平成7年、阿波木偶「三番叟」「えびす舞」を復活する会として発足し、平成11年から13年の間、最後の三番叟芸人といわれた県西部在住の男性に師事して正月の門付けに同行した。男性の死後、旦那場や技術、道具類を受け継ぎ、平成26年現在、県内5市5町で928軒の門付けを行っている。また、伝承教室を開催するなど後継者の育成に努めている。なお、平成21年3月には、阿波木偶箱まわし保存会が所有する「阿波木偶の門付け用具」163点が、国登録有形民俗文化財に登録されている。		
法量・形状 伝説由来 年代・現状 材質その他	阿波木偶「三番叟まわし」の起源は不明だが、遅くとも江戸時代に遡ると思われる。「三番叟まわし」芸人の多くは県西部に居住し、正月を中心に、それぞれの旦那場(回壇先)を日時を決めて門付けした。芸人は4体の木偶(千歳、翁、三番叟、えびす)を二つの木箱(山間部では行李)に入れて移動し、民家で門開け神事を行った。明治期の最盛期には200人を超える芸人が活動していたと考えられるが、戦争による混乱、高度経済成長を経た生活様式の変化等により衰退していった。 門付けは人形遣い1人、鼓打ち1人または2人が一組で行う。式三番叟では千歳、翁、三番叟をまわし、「天下泰平」「五穀豊穡」「家内安全」「無病息災」を祈り、えびすが「商売繁盛」を予祝する。阿波木偶箱まわし保存会は門付けのほか、農家での餅初め、藍商家での「帳場祈祷」、製藍所での「寝床祈祷」、新築の際の地鎮祭など「三番叟まわし」による祈祷を行っている。		
参 考 文 献 参 考 事 項	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島県における「三番叟まわし」「えびすまわし」調査報告書-地域社会から見た門付け芸能- 2012年3月 「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進実行委員会 ・四国における「三番叟まわし」「えびすまわし」調査報告書-地域社会から見た門付け芸能- 2013年3月 「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進実行委員会 ・「阿波木偶箱廻し」調査報告書-箱廻しの足跡調査を中心として- 2014年3月 「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進実行委員会 		
指 定 基 準	<p>県無形民俗文化財</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 風俗慣習のうち、次の各号の一に該当し、特に重要なもの (2) 年中行事、祭礼、法会等の中で行われる行事で、芸能の基盤を示すもの 2 民俗芸能のうち、次の各号の一に該当し、特に重要なもの (3) 地域的特色を示すもの 		
調 査 者 の 意 見	<p>阿波木偶「三番叟まわし」は、人形遣いと鼓打ちの二人が一組となって行う門付け芸で、「式三番叟」では天下太平、五穀豊穡、家内安全、無病息災を祈り、「えびす」が商売繁盛を予祝、正月の門付けの他、農家での農業神事、家屋新築時の地鎮祭、民家での家祈祷などを行ってきた。「三番叟まわし」は語り物の中の浄瑠璃に該当し、徳島県では特に人形浄瑠璃を挙げる事が出来る。「阿波木偶箱まわし保存会」の中内正子氏は、1999～2001年にかけて最後の三番叟芸人の旧三好町の男性(故人)の門付けに同行して継承し、門付け範囲は徳島県内5市4町900軒余に及んでいる。</p> <p>正月の門付けでは荒神祭祀、三番叟廻しの民家門付け、田中家住宅などの藍商門付け、佐藤製藍所などの藍寝床祈祷、そして神棚前の祈祷、三番叟廻し、家祓いが行われた。定めた日時に門付けを受け入れ、新しい年を無事迎え、祈祷を受けたことに感謝の意を表わす習慣が数十年続いている。他には水神祭祀、地鎮祭なども行っている。</p> <p>徳島県教育文化政策課が平成26年度に実施した「門付け」に関する全国調査では、獅子舞、太々神楽、万歳、春駒、大黒舞、念仏祭文などが報告されているが、式三番叟とえびす、更に両者が加わる伝統的な人形形態は現在存在していない。徳島県にのみ継承されている価値の高い神事芸能であることが判明している。以上から、指定基準1-(2)および2-(3)に該当し、徳島県指定無形民俗文化財として適当と認める。(岩井)</p> <p>1月2日、3日の2日間、阿波木偶箱まわし保存会の「門付け」に同行し、調査を行った。人形遣いの中内正子氏と鼓打ちの南公代氏の二人が一組となり、一対の木箱を天秤棒で担い、移動する。木箱を担うのは人形遣いの中内氏である。一箱には三番叟や恵比須大黒の人形を入れ、もう一箱は空の状態である。これは、かつて門付けを行った際に金銭の代わりに授与される訪問先の家で収穫した米や野菜、また餅や菓子類などを入れるために空にしておく習慣を守っているとのことである。しかし現在では、その箱に品物が入ることはない。一方、山間部では、人形を入れた箱を大きな風呂敷に包み背中に背負って移動する。これを背負うのも中内氏である。中内氏は、箱まわし芸人の師匠から芸を体得し、現在では「阿波木偶箱まわし保存会」を設立し、正月の門付けのみならず、各地での講演や遠くは海外での講演を行い、保存・普及・継承に努めている。</p> <p>門付けで訪問する家は、徳島県内で900軒を数え、訪問日時については特に連絡や約束はしなくても迎える側は、毎年の訪問を楽しみにされている。家族の様子や子供の成長を話題にしながら門付けの準備に取り掛かることで、ここには、訪問する側と迎える側の暗黙の精神的な繋がりが感じられる。訪問先は、個人宅から大きな会社や商店など様々である。訪問先の中には、お茶やぜんざい、うどんなどを振る舞う家もあり、それらをいただくことでコミュニケーションが深まっていく。かつての藍の豪商であった重要文化財「田中家住宅」では、神棚前で「三番叟まわし」が行われ、佐藤製藍所では、藍の寝床においても門付けをされる。また、木工業の工場では、母屋とともに配電盤や工作機械にも祝福を行う。</p> <p>このような神事形態を継承している阿波木偶「三番叟まわし」は、徳島県内のみで行われているものであり、価値の高い無形民俗文化財である。(伊達)</p>		
調 査 年 月 日	平成 27年 1月 5日	調 査 者 氏 名	岩井 正浩 伊達 仁美



民家での門付け



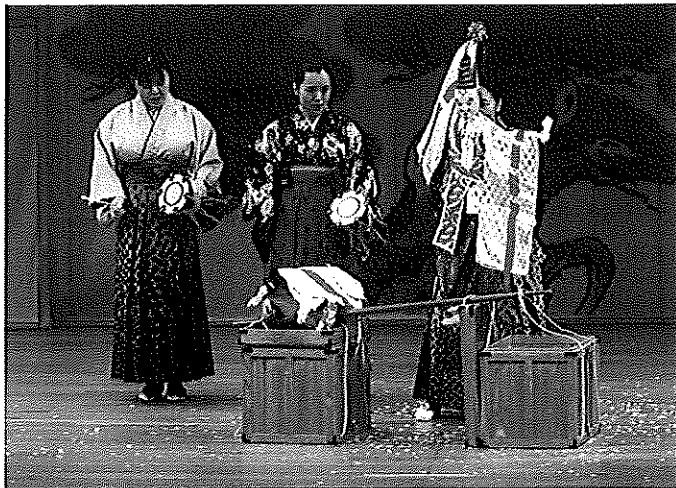
徳島市・万福寺での門付け



藍寝床祈祷



三好市での鍬初め



舞台での上演



イベントでの福分け

写真はすべて阿波木偶箱廻し保存会提供

意見書

阿波木偶三番叟まわしは、木偶人形を用いた祝福の門付け芸として徳島県内ほか愛媛県、香川県などで地域の生活の中に定着していた民俗芸能である。その起源は江戸時代まで遡り、昭和 30 年頃まで正月行事の一つとして根付いていたが、高度経済成長以後の社会情勢の変動や生活様式の著しい変化とともに三番叟まわしは徐々に姿を消した。

徳島県西部を活動拠点にしていた最後の箱まわし芸人から催行の時期や場所、芸態などの諸要素を継承した「阿波木偶箱まわし保存会」により、現在も三番叟まわしは伝承地域の人々の生活の総体として存在している。

阿波木偶三番叟まわしは、徳島県に特徴的な民俗芸能であるとともに、伝承の背景にある地域の民俗誌的な諸事象を継承し理解する上で貴重な無形民俗文化財である。

以上

(徳島市教育委員会社会教育課)

徳島県指定無形民俗文化財指定申請書

一 種別及び名称

無形民俗文化財 阿波木偶「三番妻まわし」(あわでこさんばそらまわし)

二 保持団体の名称及び代表者の氏名、住所

阿波木偶箱まわし保存会 会長 中内 正子
徳島市国府町芝原字神楽免一五八

三 創始及び沿革

別紙のとおり

四 内容

別紙のとおり

五 用具の大要

別紙のとおり

六 申請の理由

別紙のとおり

七 保存の方法

別紙のとおり

八 その他参考となるべき事項

「阿波木偶箱まわし保存会の活動記録」 (別添)

「阿波木偶箱まわし保存会会則」 (別添)

「阿波木偶箱まわし保存会会員名簿」 (別添)

「阿波木偶箱廻し調査・伝承推進事業報告集」平成二三年度・平成二四年度・平成二五年度の三冊 (別添)

右のものを、徳島県指定無形民俗文化財に指定して下さるようお願いいたします。

平成二十六年十二月八日

徳島市国府町芝原字神楽免一五八

阿波木偶箱まわし保存会

会長 中内正子

徳島県教育委員会 殿

別紙

3 創始及び沿革

「三番叟まわし」の初発は不明であるが、文化年間の『阿波国名西郡高川原村風俗問状答』や町村史誌の記載から、江戸時代から永く定着していたことが確認できる。また、旧池田町の三番叟まわし芸人が代々受け継いだ巻物「続諫夷書外題」（奥付、寛永15年）から、そのルーツは中世末に遡れるとの所見〔池田町史編纂委員会 1983 1060～1061〕もある。

しかし、昭和期に入り太平洋戦争による不安定な社会情勢と高度経済成長期の科学技術の発達による過疎や生活様式の著しい変化、機械化による営農形態の変化が大きな要因となり、徐々に「三番叟まわし」は姿を消し、平成期に入っては数組しか稼働しなくなった。

その中の一組は、最後の三番叟まわし芸人といわれた男性（1922年～2002年、三好町昼間、以下師匠）である。師匠は、兄弟二人組（鼓打ちの弟没後は一人で門付けした）で1950年代から2001年まで凡そ50年の間、徳島県西部から愛媛県東予地方の旦那場を回壇（2000軒～3000軒、1月1日から4月中旬まで）した。阿波木偶箱まわし保存会（以下、保存会）は、1999年から2001年までの3年間、師匠に弟子入りして正月の門付けに同行し、旦那場や技術、道具類等を受け継いだ。保存会は、徳島県内5市5町で928軒（2014年現在）を門付けしている。

保存会は師匠の門付け先と技術を受け継ぎ、門付け時に「荒神祭祀」（旦那場全戸）をはじめ、「水神祭祀」（三好市、東みよし町、美馬市）、「家祈祷（家祓い）」（東みよし町足代、同町加茂山、阿南市加茂他）、「ノバセワラ」（愛媛県東温市）、「鍛初め」（三好市箸蔵）、藍商家にて「帳場祈祷」（石井町藍畑）、製藍所にて「寝床祈祷」（上板町七条、同町六条）、藍染め工房にて「愛染明王祭祀」（藍住町矢上）など、「三番叟まわし」による春神楽や御祈祷など無形民俗文化を受け継いでいる。また、東みよし町三加茂（民家新築）、同町足代（庚申堂新築）、三好市三野（民家新築）に招かれて「三番叟まわし」による「地鎮祭」を行うなど、徳島の伝統的な行事にも参加している。

なお、保存会は、1995年に「阿波木偶『三番叟』『えびす舞』を復活する会」として始発し、2001年に「阿波木偶箱廻し保存会」、2012年に「阿波木偶箱まわし保存会」と改称して、「三番叟まわし」による門付けの継承活動とともに、調査研究を積み重ねてきた。

2011年から2013年には、「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進実行委員会に取り組んだ。2000年から地元の他、県下各地で伝承活動を継続しているが、2014年には、「阿波木偶箱まわし伝承事業」を企画し次世代への本格的な伝承活動に取り組んでいる。

【受賞等】

2006年 徳島新聞賞「文化賞」

2009年 本会が収集した「阿波木偶の門付け用具」（163点）が、全国で12番目、四国初の国登録有形民俗文化財に登録される

同年 徳島県「阿波文化創造賞」

4 内容

阿波木偶「三番叟まわし」は、人形遣いと鼓打ちの二人が一組となって行う門付け芸である。式三番叟で「天下泰平」「五穀豊穡」「家内安全」「無病息災」を祈り、えびすが「商売繁盛」を予祝する。正月の門付けの他、農家での農業神事、家屋新築時の地鎮祭、民家で

の家祈祷（別項参照）などを行なった。4体の木偶（千歳・翁・三番叟・えびす）を二つの木箱（山間部では行李）に入れて移動し、民家で門開け神事を行なった。「式三番叟にえびすが加わる伝統的な人形形態は他に類がなく、徳島県独自の伝統芸能である。吉野川中下流域は近世初頭から葉藍や薬、葉煙草、塩など商品作物の生産が盛んで貨幣経済社会が発達した地域であった。その条件下で三番叟にえびすが付加され、式三番叟とえびす舞が合体した特異な形態が形成されたと考えられる。

三番叟まわし芸人は、自らの持株である旦那場（門付け先）を、日時と時間を決めて回檀した。正月を中心としたが、えびす講や年末に民家を言祝いだ例も見られる。その回檀先は、四国四県に及ぶ。明治初年には200人を超す箱廻し芸人が稼働していた事を、人形師初代天狗久（吉岡久吉、安政5～昭和18）が『人形師天狗屋久吉芸談』[久米 1979]で語っている。その殆どは、徳島県西部の三好郡と美馬郡、阿波郡に居住したプロの人形遣いで明治5年の壬申戸籍に「傀儡子人形舞」の付加記載が確認されている。（三好郡志、257）

正月の「三番叟まわし」は、農村部で「鍬初め」や「ノバセワラ」などの農業神事で三番叟を奉納し、豊作を予祝した。海浜部においては豊漁を予祝し、商業都市部においては、商売繁盛を予祝した。

【門付け先での作法（民家での基本的な所作）】

門付け芸人	門付け先
<p>①玄関で荒神祓いを唱えながら御幣をきる 家人に御幣を渡す (荒神様の前で唱えながら御幣をきり、芸人が荒神様に御幣を祀る場合もある)</p> <p>②三番叟まわしを舞わす 千歳 翁 三番叟 三番叟が黒式尉をかぶる 黒式尉への依頼があれば祈祷する えびす</p> <p>③えびすの手で家人に福分けをする 「福が来ますように」 「五穀豊穰、商売繁盛、学業成就が叶いますように」 「無病息災、家内安全、病が治りますように」等</p> <p>④祝儀を受け、次の家に向かう。 (門付けの後、湯茶や食事の接待を受ける家は、決まっている)</p>	<p>①家族は座敷で手を合わせる</p> <p>②子どもや孫を抱きながら木偶を見る。手を合わせながら人形舞いを見る</p> <p>③「お面を頂かせて欲しい」（祈祷）の依頼があることもある</p> <p>④手や頭に福分けを受ける。痛い所をなでてもらったり祈祷の依頼をする時もある。不在の家族の服や写真等に福分けを依頼することもある</p> <p>⑤（お茶やお菓子を勧める）</p> <p>⑥盆に入れた祝儀をわたす。（加えて、お米やお餅等も渡すこともある）</p>

前年に不幸「ブク」がある場合は、「来年お願いします」と家人が断る。葬儀から一定の期間が経過し、祓いを行って欲しい場合は三番叟まわしを依頼されることもある。不在の場合は、各家の神々を外で拝み、御幣を玄関戸や郵便受けなどに入れる。

5 用具の概要

門付け道具（用具）

a. 木偶衣装等

種別	衣裳の特徴	主な素材	手	足	頭
千歳	棒襟、長袖付き 上衣、前垂れ	金襴、木綿 綿	右手に御幣 左手に御幣	無し	侍烏帽子、鉢巻、 飾り房
翁	棒襟、長袖付き 上衣、前垂れ	金襴、木綿 綿	右手に御幣 左手に御幣	無し	立烏帽子、鉢巻、 飾り房
三番叟	棒襟、長袖付き 上衣、前垂れ、 ズボン	金襴、木綿 綿	右手に鈴 左手に御幣	有り、黄 色の足袋	烏帽子、鉢巻、 飾り房
えびす	棒襟、短袖付き 上衣、前垂れ、 ベスト、ズボン	金襴、木綿 綿	両手有り、 弓手（左）	有り、 わらじ	風折烏帽子、 鉢巻、飾り房 首に瓢箪かける

b. 鼓 小鼓を竹製の張扇で打つ

c. 木箱・天秤棒

・木箱（杉材・凡そ縦 40 cm×横 60 cm×高さ 50 cm）二つを天秤棒（長さは 150 cm）で一荷に担ぐ。前方の箱に木偶 4 体（千歳・翁・三番叟・えびす）と面箱（白式尉面、黒式尉面、御幣、竹串の束）を入れる。後方の箱に予備の御幣、竹串の束、ご祝儀の餅や米などを入れる。門付け先が近い場合は、後方の蓋を裏返し、面箱と御幣の箱や鼓を置き天秤棒を担ぐ。門付け先が遠い場合は蓋を閉めて移動した。天秤棒を右肩や左肩に変え肩への負担を調節して移動した。

d. 行李

・行李（柳や竹材・凡そ縦 40 cm×横 60 cm×高さ 22 cm）を布（縦 160 cm×横 275 cm）で巻いて担ぐ。行李の上部は木偶の衣装を傷めないために布をあてて補強している。また、行李は木偶の出し入れで、材が折れたり傷むと補修する。布も 1 シーズンで傷むので毎年新調する。行李の中には、木偶 4 体（千歳・翁・三番叟・えびす）と面箱（白式尉面、黒式尉面、御幣、竹串の束）を入れる。

・保存会所有の「阿波木偶門付け用具 163 点」（国登録有形民俗文化財第 12 号）にも、木箱と行李の二種類が含まれている。

・保存会では、伝統的な仕様に準じて箱を製作し、門付けでは木箱と行李の両方を使用している。

・現在は、行李で門付けを行なうのが中心である。積雪のある山道を移動するとき、また、新築家屋では「にわ」（玄関を入った土間）が消えて、玄関が狭くなり箱での門付けは困難となったためである。

・木箱を一荷に担いで門付けを行なっているのは 1 月 3 日の徳島市近郊（石井町、上板町、

藍住町、徳島市) と、1月5日の兵庫県西宮市である。また、公演や伝承教室では木箱を用いている。

e. 御幣と御幣用の竹

御幣は次の形に準備して、門付け先で唱文を拝みながら、切り込みを入れた半紙を整形する。御幣箱にそれぞれ適量入れる。予備として100枚を包装紙に包んで準備する。

色	形	大きさ	切込み数
御幣 (小) 白色	半紙を半分に切り2回折りたたむ (長方形)	縦 12 cm×横 8.4 cm	4
御幣 (小) 金色	金紙を半分に切り2回折りたたむ (長方形)	縦 11.5 cm×横 9 cm	4
御幣 (大) 白色	半紙を2回折りたたむ (長方形)	縦 12 cm×横 16.8 cm	4
御幣 (大) 金色	金紙を2回折りたたむ (長方形)	縦 18 cm×横 11.5 cm	4

・家祓いに使用する大型の御幣は、別途準備しておく。

神様に祀る御幣なので、大安の日にきれいな場所で切り始める。使用するハサミや小刀、カッターナイフは神事以外には使用しない。

民泊して家祓いする家を回檀する場合は、別に家祓い用の一式を紙箱に入れて準備する。民泊分の家祓い用の御幣(大・白色)のセット、御幣(大)白色・金色、御幣(大)用の丸竹串束、半紙、ハサミ、カッター、小型の金づち、ペンチ、西宮神社の御札や福笹等。

竹は不浄な所を避けて切る。家で竹を切っていくが上下を逆にしないように必ず切り口の頭を上にして揃え、短い竹串(長さ約22cm、一束50本)と長い竹串(長さ約38cm)のサイズに切る。竹串の頭には御幣をはさむ切込みを約5cm入れておく。

f. 御札

現在保存会は、荒神の御札と西宮神社の御札やお守りを持参している。求めに応じてお礼として札を配っている。家祓いの時には、師匠が配布していた御札(淡嶋大明神の御札、馬頭観音の御札、成田山の御札)を使用していたが、それらは、国の登録有形文化財に指定(2009年3月11日)されたので、以後は同一の御札を使用していない。

6 申請の理由

阿波木偶「三番叟まわし」は、徳島県の正月習俗として古くから定着した無形民俗文化財である。阿波木偶「三番叟まわし」は、「式三番叟」と「えびす舞」がひとつの演目として形成しているが、その形態は、「阿波人形浄瑠璃芝居」や「淡路人形浄瑠璃芝居」、「文楽」等にも見られず、他に類例を見ない徳島県独特の無形民俗文化財である。

「三番叟まわし」は、藩政期より県内一円をはじめ四国内の島嶼部まで廻った。徳島県から発信した「三番叟まわし」の足跡や役割などについては、各地の県市町村史で確認することができる。徳島県内の「藍寝床祈禱」「鍬初め」や愛媛県内で行った「ノバセワラ」など農業神事等である。(2012年度「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進事業報告書参照)

1998年以來、保存会が徳島県三好郡東みよし町昼間の「三番叟まわし」芸人から伝統的な技術と門付け先を受け継ぎ、民家を門付けするとともに、2004年から毎年徳島県内各地で伝承活動に取り組んできた。また、保存会が収集した「阿波木偶の門付け用具163点」が国の有形民俗文化財に登録（2009年）されるなど、確実に成果をあげてきた。また、徳島県内外のマスメディアから保存会の「三番叟まわし」伝承活動が注目され、新聞・テレビ・ラジオ等で広く紹介されるに至った。地元の徳島新聞や四国放送、NHK徳島放送局では、正月の風物詩として毎年取りあげるなど、徳島県の正月習俗として広く県民に知られている。2011年には、「ゆく年、くる年」（NHK総合）で「三番叟まわし」の門付けが全国で紹介され、2007年と2012年に開催された国民文化祭（徳島開催）に出演し、全国的に知られるところとなった。

一方、「三番叟まわし」伝承の取り組みが「ACCU賞」（ユネスコアジア文化センター主催）を受賞（2009年）して、世界から「三番叟まわし」が貴重な無形文化遺産として認められ、世界的にも知られるに至った。

保存会が取り組みを継続し活性化する中、県民各層から阿波木偶「三番叟まわし」の徳島県や国の無形民俗文化財指定を望む声が高まっている。この無形民俗文化財を永く遺したいと願う県民の願いである。

更に、「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進実行委員会を組織し、徳島県内（2011年度）の悉皆調査の他、四国（2012年度）、全国（2013年度）にみる「三番叟まわし」や「箱廻し」の調査活動を企画し、各年度に報告集を発行して調査・研究の成果を広く紹介する取り組みを行った。その成果は、阿波木偶「三番叟まわし」の技術伝承や後継者育成活動に活かされるとともに、日本における民俗芸能研究に貢献することができた。

阿波木偶「三番叟まわし」が、徳島県の無形民俗文化財指定を受けることにより、県民との協働による「三番叟まわし」の継承活動が有効となる。加えて、徳島県の文化力向上に貢献する事を目的として申請するものである。

7 保存の方法

「三番叟まわし」の伝統的な門付けを継続するとともに、農業神事や家祈祷、地鎮祭等を徳島県内各地で行うことにより、民間の生活に根差した徳島県の伝統文化を継承していく。また、今まで積み重ねてきた伝承活動に関しては、更に積極的な伝承教室等を企画して、次世代への確実な継承を図る。なお、「三番叟まわし」等の史資料収集や保存、調査研究活動等を継続して行う。県内外で実施される民俗芸能大会や人形浄瑠璃フェスティバル等に積極的に出演する。阿波十郎兵衛屋敷や農村舞台の取り組み等と連携し、阿波人形浄瑠璃芝居各座との交流や各種伝統文化継承団体と交流において、「三番叟まわし」保存の重要性に関する啓発活動にも取り組む。

【主な引用参考文献】

文化庁文化財保護部 『正月の行事3 徳島県・三重県』（1970年）

徳島県教育委員会 『昭和62年度 徳島県同和地区民俗文化財調査報告書』（1988年）

三好郡役所 『三好郡志』（1924年）

高川原村史編纂委員会 『風俗問状答高川原村史』（1959年）

- 三野町誌編集委員会 『三野町誌』 (1974年)
- 池田町史編纂委員会 『池田町史 下巻』 (1983年)
- 三好町史編集委員会 『三好町史』 (1997年)
- 愛媛県史編さん委員会 『愛媛県史 民俗 下』 (1984年)
- 香川県 『香川県史 別編1 資料編 14 民俗』 (1991年)
- 近畿民俗学会 『阿波木頭民俗誌』 (1958年)
- 林鼓浪 他 『阿波の年中行事と習俗の研究』 (1969年)
- 久米惣七 『阿波郷土史 第4集』 (1932年)
- 永田衡吉 『日本の人形芝居』 (1969年)
- 宇野小四郎 『現代に生きる伝統人形芝居』 (1981年)
- 「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進実行委員会 『徳島県における「三番叟まわし」「えびすまわし」調査報告書』 (2012年)
- 「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進実行委員会 『四国における「三番叟まわし」「えびすまわし」調査報告書』 (2013年)
- 「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進実行委員会 『「阿波木偶箱廻し」調査報告書』 (2014年)

阿波木偶箱まわし保存会の活動記録

本会は、1995年4月に発足した「箱廻し『三番叟』『えびす舞』を復活する会」（代表・辻本一英）を前身とする。本会は、徳島県伝統の木偶遣いによる祝福芸「三番叟まわし」「えびすまわし」「大黒まわし」や、道の芸「箱廻し」を伝承し、次世代への継承や史資料の収集と研究、保存活動の推進を目的として、始発した。2001年4月に「阿波木偶箱廻しを復活する会」と改称し、代表は中内正子が就く。2012年12月に「阿波木偶箱まわし保存会」（会長・中内正子）と改称し、現在に至る。会員数は16名。箱まわしサポート倶楽部（130人）。事務局は、徳島市国府町の芝原生活文化研究所内に置き、技術伝承活動は徳島市立むつみ会館分館を主会場として行う。伝承活動は、徳島市国府町芝原と三好郡東みよし町で定期的に開催し、県内各地の小中学校や高等学校等を訪問して行っている。これまでの主な活動経緯は以下の通りである。

- 1988年 徳島県内の無形民俗文化財の聞き取り調査を始める（以後毎年）
- 1989年 第1回むつみ祭開催、無形民俗文化財の紹介を始める（以後毎年開催）（10月31日・徳島市）
- 1992年 芝原の生活文化を教材化する会を結成（2月10日・徳島市）
- 1993年 生活文化講座開講（6月6日・徳島市）
- 1994年 阿波木偶門付け用具の資料収集を始める
- 1995年 「箱廻し『三番叟』『えびす舞』を復活する会」を結成し、現地調査を始める
- 1997年 人形師田村恒夫さん（阿波木偶制作保存会会長）を訪問し、木偶による門付け芸等を聞き取る（1月11日・徳島市）
田中金寿さん（木沢人形浄瑠璃振興会）から「えびす舞」の指導を得る（11月・徳島市）
- 1998年 芝原生活文化研究所開設・箱廻しの現地調査研究や公演活動を始める
「三番叟まわし」の伝承者（以下師匠、大正11年生男性、徳島県東みよし町昼間）に弟子入りし、技術を学ぶ（4月5日・徳島県東みよし町）
- 1999年 「三番叟まわし」の師匠の門付けに同行し記録する（2月16日（旧正月）徳島県東みよし町、美馬市、三好市）
「三番叟まわし」の師匠から、本格的に技術指導を受け記録する（5月9日～12日・徳島市）
阿波木偶千歳・翁・三番叟を新調し、「三番叟を迎える会」を開催（7月18日・徳島市）
全国社会教育研究大会で「三番叟まわし」を発表（10月14日・鳥取県米子市）
「伝統芸能箱廻し出前します」（NHK徳島）に出演（10月22日・徳島市）
「阿波十郎兵衛まつり」に出演し「三番叟まわし」を実演（以後毎年）（11月14日・徳島市）
- 2000年 「ズームイン朝」（日本テレビ）に出演し「三番叟まわし」と「芝原えびす舞」を実演（1月1日・徳島県名西郡石井町田中家住宅）
西宮神社百太夫祭取材（1月5日・兵庫県西宮市）
「門付け芸の世界」に出演（1月29日・大阪市リパティ大阪）
「三番叟まわしの足跡調査」で愛媛県肱川町を取材（3月29日・愛媛県大洲市）
「箱廻しの足跡調査」で清和文楽を取材（4月1日・熊本県）
「三番叟まわしの足跡調査」で宇佐神宮取材（8月1日・大分県宇佐市）

八幡古表神社の放生会に参加し箱廻しを奉納（8月2日・福岡県吉富町）

「三番叟まわし」による地鎮祭を行う（9月25日・徳島県東みよし町）

全国人形芝居サミット&フェスティバルに出演（10月6日、7日・兵庫県淡路島）

徳島県民文化祭民俗芸能フェスティバルに出演（11月3日・徳島市）

2001年 西宮神社百太夫祭で「三番叟まわし」を奉納（1月5日・兵庫県西宮市）

師匠の「三番叟まわし」の最後の門付けに同行する（1月、2月・徳島県東みよし町、三好市、美馬市、愛媛県新居浜市）

「阿波木偶箱廻しを復活する会」に名称変更

「三番叟まわし」による地鎮祭を行う（3月29日・徳島県三好市）

NHK 金曜時代劇ドラマ「お登勢」に出演（4月6日～）

「三番叟まわしの足跡調査」で伊吹島を取材（4月19日、6月23日・24日、7月22日・香川県観音寺市）

「箱廻しの足跡調査」で大塚人形を取材（7月10日・島根県安来市）

「箱廻しの足跡調査」で円通寺人形芝居を取材（7月12日・鳥取県鳥取市）

東アジア太平洋人形劇フェスティバルに出演（9月1日・香川県）

2002年 西宮神社百太夫祭で実演（1月5日・兵庫県西宮市）（以後毎年）

事代主神社で「えびす舞」を奉納（1月10日・兵庫県東浦町仮屋）

旧正月の門付けを、師匠から受け継ぎ開始する（1月20日～・徳島県東みよし町、三好市、美馬市）

徳島市天狗久資料館開館式で「箱廻し御祝儀三番叟」実演（4月14日・徳島市）

三好町（現東みよし町）ふれあいアリーナみよし完成式典で「三番叟まわし」を実演する（4月21日）

「てれごじ」（NHK 徳島）に出演し、箱廻しを紹介する（6月13日）

「箱廻しの足跡調査」で古要神社と北原人形芝居を取材（10月12日、13日・大分県中津市）

徳島県立文学書道館開館記念式典で「箱廻し御祝儀三番叟」実演（10月26日）

2003年「EZ!TV」（フジテレビ）に出演し、門付け「三番叟まわし」を紹介する（1月2日）

「情報交差点とくしま」（NHK 徳島）に出演し、門付け箱廻しを紹介する（1月27日）

天理参考館所蔵木偶調査（2月26日27日・奈良県天理市）

小豆島の草壁地区を取材（3月11日・香川県小豆島）

瀬戸内海歴史民俗資料館で木偶調査（3月20日・香川県高松市）

人形浄瑠璃資料館取材（3月30日・兵庫県南あわじ市）

広田村に残された三番叟まわし木偶資料を調査する（5月14日・愛媛県砥部町）

愛媛県立歴史民俗博物館で門付け木偶を取材（5月14日・愛媛県宇和市）

「三番叟まわし」の足跡調査（6月1日・徳島県東みよし町昼間）

淡路サービスエリアで「三番叟まわし」「箱廻し」実演（8月12日～15日・兵庫県淡路島）

「箱廻しの足跡調査」で岐阜県の半原人形と恵那文楽を取材（9月27日・岐阜県瑞浪市、中津川市）

「箱廻しの足跡調査」で長野県今田人形他を取材（9月27日28日・長野県飯田市）

- 讀賣新聞「人間列島 徳島 I」で「三番叟まわし」の門付けが紹介される (10月13日)
- 2004年 正月元旦の門付けを開始する (1月1日・三好市)
- 「箱廻しこども体験教室」(文化庁・徳島市)を開催し伝承活動を始める (以後毎年・3月7日・徳島市)
- 阿波木偶箱廻しを復活する会の代表が辻本一英から中内正子に交代する (4月1日)
- 高円宮殿下記念地域伝統芸能祭で「三番叟まわし」を実演 (10月22日・茨城県水戸市)
- 広田村閉村式で「三番叟まわし」を実演 (12月12日・愛媛県砥部町)
- 2005年 ドキュメント「福を届け 福を待つ」(NHK 徳島)で門付けが紹介される (3月18日)
- 「麦熟らし」に参加し「三番叟まわし」「箱廻し」を実演 (以後毎年) (5月15日・愛媛県東温市)
- 長浜人形劇フェスティバルに出演 (10月1日・滋賀県長浜市)
- 「大阪国際人形フェスティバル2005」に出演 (11月3日、4日・大阪市中之島公会堂)
- 箱廻し伝承教室を開催 (5カ所・徳島市、吉野川市、三好市、つるぎ町、東みよし町)
- 2006年 徳島新聞賞「文化賞」受賞 (6月1日)
- 福岡県人権啓発センターに「三番叟まわし」「箱廻し」道具を展示する (7月1日・福岡県)
- 隼人塚取材 (8月4日・鹿児島県)
- 福山市取材 (9月6日・広島県)
- 四国放送ラジオ「阿波紳士録」出演 (10月31日)
- 「阿波の門付け芸保存会」を特定非営利活動法人として申請する (12月28日)
- VTR『えびす舞に思いをのせて』制作 (11月・メディア総合研究所)
- 箱廻し伝承教室を開催 (7カ所・徳島市2カ所、阿波市2カ所、美馬市2カ所、那賀町)
- 2007年 「阿波の芸能」(東京都・国立劇場)に出演 (1月27日、28日・東京都)
- 「おーいニッポンNHK BS2」に出演し、「三番叟まわし」を紹介する (2月3日・東京都)
- 読売新聞日曜版「夢塾」に本会の取組みが紹介される (3月4日)
- 日本経済新聞に「三番叟まわし」の門付けが紹介される (3月)
- 「箱廻しの足跡調査」で足柄座を取材 (3月9日・神奈川県南足柄)
- 第11回伝統人形芝居「2007受け継がれていく 伝統人形芝居」に出演 (3月10日、11日・東京都八王子市)
- 「箱廻しの足跡調査」で「追分人形」「左右口(うばぐち)人形」を取材 (3月11日、山梨県大月市)
- 「箱廻しの足跡調査」で「住吉座」を取材 (4月5日・岡山県真庭市)
- 映画「あかね空」に出演 (4月・全国映画館で上映)
- 「三番叟まわしの足跡調査」で「鍛初め」調査 (5月6日・徳島県三好市)
- 「浜街道まつり」で実演 (5月13日・大阪府泉大津市)
- 武蔵野美術大学民俗資料展「笑うエビス～福神の図像学～」にて資料展示及び実演 (8月4日～9月22日・東京都)
- 徳島県公式訪問団としてドイツ・ニーダザクセン州を訪問し実演 (9月13日～17日・ドイツ)
- 第22回国民文化祭(徳島開催)オープニングで「三番叟まわし」の門付けを再現 (10月・徳島)

市)

徳島県立文書館特別企画展「福を運んだ木偶たち～阿波木偶「三番叟まわし」「えびすまわし」～」を共催(10月31日～11月11日・徳島市)

日本民俗音楽学会で全国の研究者に箱廻しを紹介(11月18日・徳島市)

「門付け芸の世界とじんけん」(徳島県人権啓発事業)に出演(11月10日・徳島市)

箱廻し伝承教室を開催(6カ所・徳島市2カ所、鳴門市、吉野川市2カ所、東みよし町)

2008年 「箱廻しの足跡調査」で「鯨初め」を取材(1月2日・徳島県三好市)

「箱廻しの足跡調査」で東みよし町の「三好町文化人形座」を取材・一括購入(芝原生活文化研究所・資料室所蔵)(3月18日)

小野さくらの舞台(農村舞台)で実演(4月6日・徳島県神山町)

韓国江陵端午祭取材(6月5日～8日・韓国・江陵市)

韓国の人形劇フェスティバルで実演(韓国・アラリ人形劇博物館、チョンソン文芸会館など、7月25日、26日)

韓国の「アラリ人形の家」に阿波木偶を貸し出し展示

飯田人形劇フェスティバル(30周年記念)に出演(8月6日～8日・長野県飯田市)

古要社のくぐつと、宇佐神社の放生会を取材(10月12日・大分県中津市・宇佐市)

「INAKA 博覧会」で実演(以後毎年)(10月4日、5日・徳島市)

「じんけんを楽しむ・太鼓と猿と雑芸と」(徳島県人権啓発事業)に出演(10月25日・徳島市)

三加茂中学校の三番叟まわしに関する公開授業に参加(11月7日・徳島県東みよし町)

箱廻し伝承教室を開催(7カ所・徳島市、三好市、藍住町、神山町、美波町、東みよし町2カ所)

2009年 徳島新聞正月版に2面に渡り門付けや取組みが紹介される(1月1日)

ユネスコ・アジア文化センターの「第2回 ACCU 賞」を受賞(3月)

パリの世界文化会館に招かれ「三番叟まわし」などを実演(4月6日・フランス)

本会が所蔵する門付け用具が「国の登録有形民俗文化財」として登録される(3月11日・文化庁)

徳島城博物館で企画展「阿波の木偶門付け芸」が開催され、展示と実演を行う(6月27日～7月12日・徳島市)

東新町アーケードで阿波踊りと競演する(8月12日・徳島市)

「伝統人形は今」に出演(9月12日、13日・東京都、ブーク人形劇場)

「西宮まつり海上渡御祭」を取材(9月23日・兵庫県西宮市)

「阿波路に風が吹くパートⅢ～じんけんを楽しむ～」(徳島県人権啓発事業)に出演(10月24日・徳島県北島町)

「NHK連続テレビ小説ウエルかめ」のイベントに出演(10月31日・大阪市)

ユネスコ・アジア文化センター「ACCU賞ワークショップ」と授賞式で実演(11月15日・徳島市)

本会会長中内正子が阿波文化創造賞を受賞(11月17日)

箱廻し伝承教室を開催(5カ所・徳島市、鳴門市、吉野川市、美馬市、三好市)

2010年 徳島新聞で門付けの様子が紹介される(1月3日)

阿南市加茂谷地区で60年ぶりに「三番叟まわし」の再現の取り組みを始める(1月8日・徳島県阿南市)

あわ民俗芸能フォーラムに出演（徳島県教育委員会主催）（2月7日・徳島市）
「おはようとくしま」（四国放送）で門付けの様子が紹介される（1月20日）
「ニッポン人脈記 差別を超えて③」（朝日新聞）に掲載される（1月21日）
「近江路に風光なむ」に出演（2月11日・滋賀県草津市）
「ピックアップヒューマン」（NHK 徳島）に顧問の辻本一英が出演し「三番叟まわし」を紹介（3月5日）
阿波木偶箱廻しを復活する会の十五周年を祝う会を開催（4月24日・徳島市）
オリエン特博物館で公演（5月12日～15日・ポルトガル・リスボン市）
韓国人形劇フェスティバルに招かれ実演（6月・韓国・江陵市）
ユネスコ世界文化遺産「韓国の江陵端午祭」に招かれ実演（6月・韓国・江陵市）
箱廻し伝承教室を開催（10カ所・徳島市5カ所、小松島市、阿南市、吉野川市、つるぎ町、東みよし町）

2011年 NHK『ゆく年くる年』で、正月の「三番叟まわし」が紹介される（1月1日・徳島県三好市）
徳島県から委託を受け、「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進実行委員会を立ち上げ、徳島県における「三番叟まわし」「えびすまわし」の調査

活動と資料収集を行う

一人操り伝統人形大芝居に出演（3月12日、13日・徳島市）
韓国の寧越郡・平昌郡・旌善郡・江陵市の公立学校で公演（4月26日～29日・韓国）
アメリカ・サギノー市姉妹都市50周年記念式典で実演（5月12日、13日・アメリカ・サギノー市）
人形芝居の実演とボランティア活動を行う（7月7日～11日・福島県、宮城県）
人形芝居の実演とボランティア活動を行う（8月11日、12日・宮城県）
箱廻し伝承教室を開催（8カ所・徳島市、鳴門市、小松島市、吉野川市、美馬市、三好市、板野町、牟岐町）

2012年 一人操り伝統人形大芝居 partⅡに出演（3月3日・徳島市）
平成23年度「阿波木偶箱廻し」調査・伝承推進事業報告会の開催（3月25日・徳島市）
「箱廻しの足跡調査」で大井文楽を取材（6月5日・岐阜県恵那市）
郡上八幡で「三番叟まわし」の門付けを行う（6月7日・岐阜県郡上八幡町）
「箱廻しの足跡調査」で大井文楽を取材（7月11日・岐阜県恵那市）
箱廻しジョイント公演（10月7日・徳島市）
一人操り伝統人形大芝居 partⅢに出演（10月13日・徳島市）
一人操り伝統人形大芝居 partⅣに出演（10月14日・徳島県東みよし町）
全国人形芝居フェスティバル（国民文化祭事業）に出演、資料展示（10月20日、21日・徳島市）
「箱廻しの足跡調査」で泉沢人形を取材（11月16日・群馬県前橋市）
箱廻し伝承教室を開催（10カ所、鳴門市2カ所、阿波市、三好市2カ所、那賀町、美波町、海陽町2カ所、つるぎ町）
「阿波木偶箱まわし保存会」に名称変更（12月25日）

2013年 中国四国農政局主催「語り部交流 in とくしま」で実演（1月31日・美馬市脇町）

阿波木偶箱まわし保存会 会則

第1条 (名称)

この会は、阿波木偶箱まわし保存会と称す。

第2条 (目的)

この会は、徳島県の木偶一人遣いによる「箱まわし」を伝承し、史資料の収集や次世代への技術伝承保存活動を推進することを目的とする。

第3条 (構成)

この会は、会の目的に賛同する個人会員で構成する。

事務局は、芝原生活文化研究所・資料室（徳島市国府町芝原字神楽免 158）に置く。

第4条 (事業)

この会は、この会の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 技術向上に関する事業
2. 調査研究に関する事業
3. 史資料の収集・保存に関する事業
4. 次世代への伝承に関する事業
5. その他、必要と認められる事業

第5条 (役員)

この会に、次の役員を置く。任期は二年とし、再任は妨げない。

会長・1名 副会長・2名 会計・1名 会計監査・2名

第6条 (役員の仕事)

役員の仕事は次の通りとする。

1. 会長は、この会を統括する。
2. 副会長は、会長を補佐し、会長不在の時は仕事を代行する。
3. 会計は、この会の会計業務を行う。
4. 会計監査は、本会の会計業務を監査し、総会に報告する。

第7条 (会議)

1. 総会・役員会は会長が招集し、その議長となる。
2. 総会は年1回以上開き、次の事項について協議し決定する。
 - (1) 事業報告・決算報告
 - (2) 事業計画・予算

- (3) 役員を選出
- (4) 会則の改廃
- (5) その他重要事項

3. 役員会は、会長が招集して開催し、会の運営について必要な事項を協議する。

第8条（顧問）

- 1. この会に必要と認められる学識者を顧問とすることができる。
- 2. 顧問は会長が委嘱する。

第9条（会計）

- 1. この会の経費は、会費・寄付金その他をもってあてる。会費は別に定める。
- 2. この会の会計年度は、4月1日から翌年の3月31日とする。

附則

この会則は、2012年12月25日から施行する。

阿波木偶箱まわし保存会会員名簿

顧問	辻本 一英
会長	中内 正子
副会長	南 公代
同	酒井 理恵
会計	辻本 絵蘭
会計監査	野町 孝英
同	森本 喜代貴
会員	大塚 明美
同	亀島 敬司
同	佐古 英仁
同	高橋 千奈美
同	中内 トシミ
同	中野 修次
同	野町 菜々子
同	藤高 春芳
同	横田 麻美
同	横田 繁夫